

BRIDGE

Special Issue
The Intersection of Nihonbashi Hamacho

Section 01

みんなで学ぶ。私たちの防災

Illustrator_Mayu Kitagamae, Text_Mika Kakuta



Section 01
みんなで学ぶ。わたしたちの防災

Section 03
地元の企業が
取り組む防災

Section 02
住民主体で取り組む。浜町の防災のかたち

Section 04
防災の日に向けて

隅田川沿い、日本橋エリアの一角に位置する、日本橋浜町。下町風情が微かに残る趣深い街並みに、最近では暮らしを彩る新たなカルチャースポットが続々と生まれています。

「BRIDGE」は、そんな浜町の魅力や変化を、まちの中の人に、まちの外の人に、発信していく地域密着メディアです。

住民と住民を。ワーカーとワーカーを。伝統と新風を。この小冊子が繋ぎ合わせる“橋”となり、浜町にさらなるシーンとワクワクを誘います。

About BRIDGE



新大橋
関東大震災時も火をまねがれ、人々から「人助け橋」も呼ばれ、永く親しまれるようになった

Supervised by 一般社団法人日本橋浜町エリアマネジメント
Edited by goodmornings Co.,Ltd
Design by Form inc.
Date of Issue 2020_8_20

Supported by
安田不動産 明総産

地域の正しい災害リスクを知ろう

地震、台風、大雨など、常に災害の危険にさらされている日本。時として、想像を超える規模で襲いかかる災害から身を守るのは、正しい「知識」と日々の「備え」。何より「いつか必ず起きるもの」という意識を持って、対策に取り組んでいくことが大切です。ここでは、防災対策をはじめの上で押さえておきたい、地域の正しい災害リスクについてご紹介。「浜町周辺で起こりうる災害って？」土地の特徴と合わせて分かりやすく解説！

突如襲いかかる恐怖「地震」

甚大な被害を及ぼす地震。実はここ東京でも大地震が発生すると言われています。都では東日本大震災をきっかけに、首都直下地震である「東京湾北部地震(M7.3)」や、海溝型地震である「元禄型関東地震(M8.2)」を想定して耐震対策を開始。東京湾北部地震は震度7の地域が発生するとともに、震度6強の地域が広範囲にわたると予測。元禄型関東地震では、東京湾の干潮面より3.7m高い津波が発生すると想定されています。

POINT ふたつの地震の違いは？
東京湾北部地震・・・東京湾の直下で発生すると想定。元禄型関東地震と比べて規模が小さく、津波も低いと考えられていますが、震源が東京湾の直下であるため、津波到達時間が早いと想定されています。
元禄型関東地震・・・相模トラフで発生すると想定。東京湾北部地震と比べて規模が大きく、津波も高いと考えられていますが、東京の沿岸部から離れた位置に震源地があるため、津波到達までに時間がかかると想定されています。

近年多数の被害が出ている「水害」（津波・高潮・洪水・内水）

浜町エリアは、河川の堤防や下水道によって水害から守られてきた地域です。しかし、水害リスクが少ないうわけではなく、隅田川や日本橋川、荒川の氾濫の影響を受ける可能性もあります。下水道は1時間に50mmの雨を排水できるよう整備されていますが、近年はそれを越える雨が観測されることも…。一方、現在想定されている東京湾の津波の高さは、すでに完成している堤防の高さより低いとされており、巨大津波が街中まで到達する可能性は低いと考えられています。

POINT 津波と高潮、外水氾濫（洪水）と内水氾濫の違いは？
「津波」と「高潮」は、大規模な水の移動によって、高波が沿岸の方へ押し寄せる現象のこと。ふたつはその原因によって区別されていて、津波は地震や海底火山の噴火といった「気象学的要因以外」で発生したものを、高潮は台風や発達した低気圧が原因で発生したものを指します。「外水氾濫」は、河川が増水して氾濫すること。それに対し堤防の内側、市街地で水路や下水道から水が溢れることを「内水氾濫」と呼んでいます。

重なることで大きな被害に見舞われる可能性も「複合災害」

危険なのは隅田川が比較的近いこと。堤防がコンクリートできているため、地震でひび割れが起きたてしまった場合は、水が漏れ出てくる可能性も。2つの災害が重なることで、予想していなかった被害に見舞われる可能性もあるんです。こういった複数の原因で起こる災害を「複合災害」と呼んでいて、最近では感染症の流行と重なることも不安視されています。

住宅×オフィスビルが混在する浜町ならではの 災害の影に潜む2つの危険

① 一斉避難で大混乱！街に人が溢れかえる！

住民だけでなくワーカーも多い浜町で、災害時不安視されるのは、帰宅困難者問題。区でも帰宅困難者の受け入れ先としていくつかの施設を指定しているものの、建物の被害によっては受け入れできない場合もあります。「街に人が溢れ混乱が起きたら？」「人が集中し動けなくなり、最悪群衆雪崩が起きてしまったら？」このような事態を防ぐためには、各企業が首都直下地震を想定した訓練を定期的に行い、必要に応じて対策をねること。そして災害が起こってしまった場合も、むやみに移動を開始せず、正確な情報を元に焦らず行動することが大切なんです。帰宅困難者対応マニュアルを作成し、従業員一人ひとりに防災対策を実践させましょう。

② 被災後における危険！ライフラインの断絶

災害時の危険は想像を絶するもの。反面、被災後の生活については、不安視している人が少ないのが現状です。災害時は停電や断水により、普段どおりの生活を送れない場合が多数。昨年の台風第19号による風水害では、配電設備の浸水・故障により、棟全体が生活不能の状態に追い込まれたマンションもありました。中でも、トイレの問題は深刻。仮設トイレの設置には時間がかかる上、流せず汚物の処理ができないトイレは悪臭を放ち、心身の健康に影響を及ぼします。解決策としては、食料等の備蓄と合わせ、市販の「携帯トイレ」を常備しておくこと。万が一の際に慌てないよう、使い方は家族間でしっかり確認しておきましょう。

POINT 自分事としてリスクに向き合う
ネットなどの既存の情報にとらわれず、「災害後、自分たちの生活は機能するのか？」自分事として落とし込んで考えて行くことが大切。マンションに住んでいる人は、改めてマンション設備について確認をしましょう。

教えてくれたのはこの会社！
株式会社 建設技術研究所
日本で最初の建設コンサルタント会社。「人を想い 社会を創る」という想いのもと、人々の暮らしに想いを馳せ、技術の力で持続可能な社会づくりに貢献することを使命としている。防災以外にも河川や道路の他、インフラ全般の整備や維持管理など、手がけている事業は多岐にわたる。行政のパートナーとして社会を支えている。
中央区日本橋浜町 3-21-1 日本橋浜町 Fタワー
※株式会社 建設技術研究所へのインタビュー内容を元に編集して掲載しています

災害に備えて。わたしたちがやるべき防災

地域の正しい災害リスクを知ることは、いわば“知識”を深めること。ここからは防災のもうひとつの要である“備え”のお話しを。自分や大切な家族の身を守るために、わたしたちが今できることは…？各自が必要な備蓄を揃えるのは基本。ここで紹介する3つのポイントを参考に、改めて家庭の備えを見直してみましょう！

POINT 01 家族会議をひらこう



- 非常用持ち出しバッグを用意しよう
- 安否確認の方法を話し合おう
- 室内の安全を確認しよう

非常時に持ち出す物をあらかじめリュックに詰めておき、いつでも持ち出せるよう用意を。何を詰めるかだけでなく、リュックの置き場所も確認しておく、非常時でも慌てずに対処することができます。また、外出中に帰宅困難になったり、登下校中離れ離れになった際の安否確認の方法や集合場所もしっかり話し合っておくこと。携帯電話や公衆電話からも利用できる「災害用伝言ダイヤル」は、局番なしの「171」にかけることで伝言を録音でき、自分の番号を知っている家族がそれを再生できるサービス。災害時、回線が混み合い電話がつながりにくくなった場合の連絡手段としておすすめです。そして、背の高い家具は壁に固定しているか？寝室や子供部屋に転倒の危険がある家具は置かれていないか、この機会に改めて見直しを。

POINT 02 地域の防災インフラを知ろう



- 街を巡ってみよう
- 避難先を確認しよう
- 給水所を確認しよう

家の周りの地形を知ることや危険な箇所がないか確認することは、災害対策に必要不可欠。成人目線・子ども目線・そしてお年寄り目線と、その人の身体の特徴や健康状態によって危険な箇所やその危険度は異なるので、ひとりだけでなく家族とともに巡ってみるのがおすすめです。また、避難所の場所と併せて、そこまでのルートもしっかりと確認しておくこと。大規模な地震の場合は、道路や信号が破損したり、道路にものが落ちている可能性も…。複数のルート把握しておくことで、もしものときも慌てずに対処することができます。給水所は災害時における飲料水を確保している場所。中央区は「あかつき公園」「堀留児童公園」「晴海給水所」の3箇所。こちらも避難所と併せて確認しておくといでしょう。

POINT 03 情報収集をしよう



- ハザードマップを確認しよう
- 防災アプリをチェックしよう
- SNSでこまめに情報をキャッチしよう

中央区のホームページでも公開されているハザードマップは、浸水想定区域図をもとに、想定される浸水の範囲や深さ、避難所などの情報をまとめた地図のこと。区ではこの他にも、地震発生時、住民が慌てず避難できるよう「中央区防災マップアプリ」のサービスを提供。オフラインでも避難所までの経路を確認できる他、災害時に必要な情報をプッシュ通知で届けてくれる便利なアプリです。



※中央区役所防災課への取材と「首相官邸ホームページ」(https://www.kantei.go.jp/gp/headline/bousai/sonae.html)を元に編集して掲載しています。

あなたは何問正解する？ 楽しく学ぶ 防災クイズ

中央区や浜町周辺に関連したものを中心に4問出題。親子で楽しみながら、いざ挑戦！

Q1 火災時のスピーディーな初期消火を目的に設置されている街頭消火器。設置されている場所の特徴として、間違っているのはつぎのうちどれ？
A 昔ながらの木造建築が多い場所
B オフィスが立ち並ぶ大通り沿い
C 大通りに面していない狭い道沿い

Q2 災害の防止、安全・円滑な交通の確保等を目的に実施されている電線の地中化。浜町では新大橋通り・清洲橋通り・明治座通りのどの通りで実施されている？
A 新大橋通り・清洲橋通り・明治座通りの3つの道路で実施
B 新大橋通り・清洲橋通りの2つの道路で実施
C 実施されている箇所はない

Q3 災害発生時、物資が調達できなくなった場合に備えて、食料や生活必需品等を備蓄している備蓄倉庫。浜町には何箇所設置されている？
A 1箇所
B 2箇所
C 3箇所

Q4 災害発生時の水の確保に役立てられている「給水所」と「防災用井戸」。その違いは何？
A 給水所は生活水の確保を目的に、防災用井戸は飲料水の確保を目的としている
B 給水所は飲料水の確保を目的に、防災用井戸は生活水の確保を目的としている
C 違いはなく、どちらも飲料水・生活用水として活用できる

「自助」から「共助」へ ともに助け合えるネットワークづくりを

災害による被害を少なくするためには、一人ひとりが自分の身の安全を守る「自助」の考えが基本。ですが、自分一人では対応できなくなったとき、頼りになるのが隣近所や地域全体で力を合わせる「共助」の考えです。日頃からあいさつを交わしたり、町内会主催の防災訓練・イベントに参加するなどして、住民同士の付き合いの輪を広げていきましょう。

親子防災フェスティバル



2017年3月から、毎年、夏と冬の2回開催している防災イベント。日本橋五の部連合町会が、日本橋消防署等の団体と連携して実施。子どもとその保護者を対象に、さまざまな催しを企画しています。中でも人気なのが、隅田川テラスやその周辺で行う「夏の親子防災フェスティバル」。水遊びを通して防災について学べるだけでなく、消防士による水難救助の実演も見学することができるんです。冬の開催時には、起震車やまちかど防災訓練車といった児童がワクワクする催しを多数用意。ミニ防火服を着て消火訓練が受けられるなど、“楽しく学べる”要素がたっぷり詰まっています。

町内会や自治会では、年間10回以上のイベントを開催（2020年度はコロナウイルスの影響により中止）。はじめての方でも参加しやすいアットホームな雰囲気も魅力です。裏面では町内会の方にお話を伺い、親子防災フェスティバルを始めるに至った経緯などを聞いてきました！

<写真提供>日本橋五の部地区委員会

大切なのは人と人の関わり。安心・安全の街を目指して

日本橋浜町界隈のエリアの 10 町会が所属する日本橋五の部連合町会では年に 2 回、「親子防災フェスティバル」を開催しています。2017 年 3 月から始まった同イベントは毎回数百人が参加するほどの大人気。住民と地元機関が一丸となった活動が評価され、今年 1 月には東京消防庁より「地域の防火防災功労賞優秀賞」を受賞。多くの住民の関心を集める取り組みの内容について事務局のお二人に話を伺いました。



日本橋五の部地区委員会 副事務局長
関根 佳代子さん

浜町歴は 41 年。小学生時代からボランティア等の町会活動に参加。親子防災フェスティバルの立役者でもあり、消防団として培った知識や経験を元に、防災活動の普及を精力的に行っている。

日本橋五の部地区委員会 事務局長
鳴海 和司さん

浜町歴は 25 年。会社や友人以外のコミュニティを広げていきたいの思いから、日本橋五の部地区委員会に加入。以降、さまざまなイベントの企画・運営を行い、現在は事務局長を務めている。

—— 防災イベントを始めたいきさつについて教えてください。

鳴海 防災訓練自体は町会ごとに開催しているのですが、子育て世代など新しくこの街にやってきた方たちが参加しにくいといった状況があったんです。そこで、「もっと気軽に楽しく防災を学べる場を作ればいいのでは？」という声が各地区の委員から上がったのがきっかけでした。



関根 案としてすぐに浮かんだのが大人向けではなく、むしろ子供を対象にすること。さらに、地元の消防署や消防団、警察署、小学校、町会など地域の機関と住民をつなげる場にすることで街の活性化にもなるといったんです。私自身、消防団に所属していたこともあり、何かあったときだけではなく、普段からこうした機関の方たちと接すること自体が防災に役立つという確信がありました。

—— 多くの方たちに参加してもらうためにどんな工夫を？

鳴海 浜町公園という公の場で誰でも自由に参加できるというオープンなスタイルにしました。そして、地震を疑似体験できる起震車や煙体験ハウス、炊き出し体験としてアルファ化米の試食コーナーも設置。興味と食欲をそそる作戦です（笑）



関根 まずは足を止めてもらうことが大切ですね。そこから先は、実際に体験してもらうことで防災の知識を深めてもらうために、スタンブラー形式で地震や火災に関わる各体験ブースを回れるようにしました。さらに、「ごみ袋で作る雨カッパ作成」や「新聞紙で作るスリッパ」など、楽しみながら役に立つ知識を得られるコーナーも作りました。

鳴海 当初は 50 人くらい集まればいいなと思っていたら、まさかの 150 人！予想以上の反響にびっくりです。

—— その後、夏にも防災フェスティバルを開催することになったのですか。

鳴海 東京消防庁日本橋消防署浜町出張所の協力を得て、夏休みに合わせた水の事故を防ぐための訓練を行うことにしました。これには、子どもはもちろんのこと大人も大興奮！というも隅田川で行なった水難救助の実演があまりの迫力で、川でおぼれた人を水難救助隊が助ける様子をみんなでかたずを飲んで見守り、無事に助かったときにはみんなで拍手。参加者が口々に消防士の皆さんに「ありがとうございます！」と感謝をしていたときには見ているこちらも感動しました。やはり、身を持って体験するというのは大切ですね。



関根 あるお子さんが「将来は消防士になりたい！」と言っていたのも印象的。人を守り、街を守ってくれている方々の活動の様子を目の当たりにすることで、感謝を伝えられ、希望も持てる。防災の知識を得るだけでなく、地域と住民のふれあいの場になっていることがとても嬉しかったです。



—— 浜町で暮らす人たちの防災意識はどのような印象ですか？

関根 学校、警察署、消防署、町会などの接点があった以上であり、地域ぐるみでとても仲が良いですね。そして、みんな腹を割って話す。そのことが防災の面も含めて、よい街を作るベースになっていると思います。

鳴海 私も 25 年以上町会に参加させて頂いていますが、この街をよくしたいという熱い思いを持っている方たちが多いと思います。「子どもは地域が育てる」という下町ならではの意識も感じます。この意識が“安全で安心な街”であり続けているカギになっているのではないのでしょうか。



関根 昔からこのあたりはお祭りや行事で、家族以外の子どもや大人と接する場面が多い。これがとても大切なことなのだと身を持って感じています。特に、子どもが危険なことをしていたら、「NO ！」と言える大人がいることのありがたさといったら。私も、普段は口うるさいけれど、いざというとき頼りになる存在でいたい。そうした“人”の存在もまた防災に役立つのではないかと。

鳴海 本当、そうですね。まずは人と人がつながり、街、そして日本橋エリアが連携していく。それがさらに安心して安全な街を作っていくのだと思います。

日本橋五の部地区委員会
nihonbashi5nochan@gmail.com

地元の企業が取り組む防災

地域や社会に貢献したい。企業が挑むそれぞれの防災

日本橋浜町界隈では町内会を中心に、街とそこに住む人に寄り添って防災活動を続けてきました。ここからは住民ではなく、地元でオフィスを構える“企業”とそこから生まれた“事業”にフォーカス。防災への取り組みや、取り組みに至った経緯などを伺ってきました。その背景には、「自分たちの持つ技術や力で、地域や社会に貢献したい」という企業の熱い思いがあったのです。

カゴメ株式会社「野菜の保存食」



「野菜の保存食セット」
野菜一日これ一本長期保存用 190g 6 本
野菜たっぷりスープ 160g トマト・かぼちゃ・豆各 2 種

「自然を、おいしく、楽しく」をブランドテーマに、飲料や食品、生鮮野菜など幅広く取り扱うカゴメでは、2011 年の東日本大震災をきっかけに保存食の開発を検討。“野菜を摂取することが難しくなる災害時に、少しでも健康を維持させる手助けができれば”との想いから生まれたのが、「野菜の保存食セット」です。「野菜一日これ一本長期保存用」と「野菜たっぷりスープ」の詰め合わせで、2 人世帯だと 3 日分の備蓄を確保することが可能。「野菜たっぷりスープ」は豊富な種類の野菜、豆、穀類がたっぷり入ったヘルシーなスープで、塩分が気になる人にもおすすめ。「野菜一日これ一本」は言わずと知れたカゴメのヒット商品！長期間経過してもおいしく飲めるよう独自で開発をすすめ、業界初である 5.5 年の保存を可能にしたんです。

● 広報の一言

備蓄食品を備える際は、栄養バランスを整えるためにも、主食だけでなく野菜の加工品も取り入れるのがおすすめです。災害時でもおいしく健康的な食生活を送れるよう、今後も企業としてさまざまな提案を行ってまいります。

カゴメ株式会社
中央区日本橋浜町 3-21-1
日本橋浜町 F タワー
https://www.kagome.co.jp/



株式会社建設技術研究所「RiskMa」



リスクマ
「RiskMa」
https://www.riskmanet/ja/top

日本で最初の総合建設コンサルタント会社として、地域のインフラを支えている株式会社建設技術研究所では、水災害防止に役立つさまざまな情報を集約した「RiskMa（水災害リスクマッピングシステム）」というサービスをインターネット上で公開。36 時間先までの雨量分布予報、実績の累加雨量分布をリアルタイムで表示する無料の Web サービスで、スマートフォンからの利用も可能です。また、2～3 時間先までのゲリラ豪雨情報をリアルタイムで提供してくれる他、雨がもたらす内水氾濫の危険性を予測するシステムも兼ね備えており、浸水が起こる前に早期の対策を立てることが出来ます。災害時はもちろんのこと、「洗濯物を外に干すか干さないか」「今日は傘を持っていくべきかどうか」など、普段の生活の中でも役立つシステムです。

● 広報の一言

自然災害が後を経たない中、市民の皆さまの安全・安心な暮らしを守り、持続可能な社会づくりに貢献するのが私たちの使命です。積極的に技術開発に取り組んで、さまざまなサービスを皆さまに提供していきたいと考えております。

株式会社建設技術研究所
中央区日本橋浜町 3-21-1
日本橋浜町 F タワー
http://www.ctie.co.jp/



防災の日に向けて

一人ひとりが防災への意識を高め、安心して暮らせる街へ

本号は 9 月 1 日の「防災の日」に向けて、住民やワーカーの皆さんに地域の防災を知ってほしい、そして自分事として防災に取り組んでほしいという想いの元、特別号として発行しました。作成する中で分かったことは、安心・安全な街を目指して、自らが主体となりまっすぐ突き進む頼もしい住民がいること。その影には、活動に賛同し快く力を貸してくれる消防署、消防団、警察署の存在があること。地域や社会に貢献しようと、日々事業に励む企業があること。そして、住民一人ひとりの安全のために、日々対策を行う区役所の職員がたくさんいることです。私たちができることは防災への意識を高め、自分や家族を守ること。それをこれからの未来に繋げていくことだと思います。この街がこれからも安心・安全な街であるように…。一人ひとりが今できる防災に取り組んでいきましょう。



楽しく学ぶ 防災クイズ 答え合わせ

Q1 答えは… **B** オフィスが立ち並ぶ大通り沿い

街頭消火器は火災時の初期消火をすばやく行うために設置。消防車が入りにくい狭い道を中心に、昔ながらの木造建築が多い場所にも設置されています。浜町だけでも合計 52 本を設置。人形町や蛸殻町、久松町を含めると、なんと 100 本以上設置されているんです。



Q3 答えは… **A** 1箇所

浜町は「総合スポーツセンター」に、備蓄倉庫が設けられています。中央区が管理を行っていて、給水タンクや仮設トイレ等、各避難所で使用する生活用品が備蓄されているんです。



Q2 答えは… **A** 新大橋通り・清洲橋通り・明治座通りの 3つの道路で実施

浜町では平成 31 年 3 月末時点で、新大橋通り、清洲橋通り、明治座通りの電線が地中化されています。中央区の無電柱化率は電線管理者が行う単独地中化を含めて、国道 100%、都道 97%、区道 36.1%、区全体では約 44.9% となっています。



Q4 答えは… **B** 給水所は飲料水の確保を目的に、防災用井戸は生活水の確保を目的としている

給水所は飲料水の確保を目的に、防災用井戸は生活水の確保を目的としています。防災用井戸は避難所で使用するもので、浜町では浜町公園に設置されています。

